金融の働き

６

お金との上手な付きあい方とは？

教科書p.6～17➡

**▶ 貯める・増やす方法にはどのようなものがある？**

**以下の選択肢のうち，堅実にお金を貯める・増やすための行動として適切なものを選んでみよう。**

**②と④**

①（暗号資産にして運用する）は誤り。暗号資産（仮想通貨）は，価格変動が非常に大きい金融商品です。短期間で大きな利益を得られる可能性がありますが，逆に大きく価値を失うリスクも伴います。価格の変動要因が複雑で予測が難しく，安定的に資産を増やす方法としては堅実とは言えません。

②（銀行の普通預金口座に入金する）は，最適とは言えないが適切。 銀行の普通預金口座は，預けたお金を安全に保管する場所としては非常に優れています。預金保険制度によって一定額までは保護されるため，堅実にお金を貯めるという目的においては有効な手段です。しかし，現在の日本では普通預金の金利は非常に低く，預けていてもお金はほとんど増えません。増やすという目的においては，あまり適切とは言えません。

③（宝くじを大量に購入する）は誤り。宝くじは，当たれば高額な当選金を得られる可能性がありますが，期待値（購入金額に対する平均的な払い戻し）は購入金額を下回るように設定されており，統計的に見ると購入すればするほど損をする可能性が高くなります。

④（個人向け国債を購入する）は適切。個人向け国債は，国が発行する債券であり，比較的安全性が高い金融商品です。満期まで保有すれば，あらかじめ決められた利息とともに元本が返済されます。預金よりも金利が高く設定されている場合が多く，堅実に資産を貯める・増やすための方法として適切です。元本割れのリスクも低いと考えられます。

⑤（金運アップのお守りを購入する）は誤り。金運アップのお守りは，心理的な安心感を得る効果はあるかもしれませんが，科学的・合理的に考えてお金が貯まる・増える効果があるとは言えません。

⑥（自宅の金庫に現金を保管する）は誤り。自宅の金庫に現金を保管することは，盗難や災害のリスクがあるため，堅実な方法とは言えません。また，現金は銀行預金のように利息を生みません。さらに，インフレによって現金の価値は時間とともに目減りします。

⑦（高い利回りの外国通貨を売買する）は誤り。高い利回りの外国通貨は，一般的に為替レートの変動リスクも高い傾向にあります。為替レートは，政治・経済状況など様々な要因によって大きく変動するため，予測が非常に困難です。高い利回りに惹かれて安易に外国通貨を売買すると，為替変動によって損失を被るリスクがあります。堅実な資産運用とは言えません。

**▶ 主な金融商品の性質を知ろう**

**元本とは何か，調べてみよう**

…お金を銀行に預けたり投資したりするときの，最初に用意したお金のこと

（たとえば，1万円を銀行に預けた場合，その1万円を元本と呼ぶ）

**流動性とは何か，調べてみよう**

…お金やモノをすぐに現金に換えられる度合いのこと

（たとえば，財布の中の現金はすぐに使えるので，流動性が高い。家や土地は売るのに時間がかかるので，流動性が低い）

**主な金融商品の特徴について，とても優れているものは「◎」，あまりよくないものは「△」，その中間のものは「○」 をつけてみよう。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **収益性** | **安全性** | **流動性** |
| **預貯金** | △ | ◎ | ◎ |
| **国債** | △ | ◎ | ○ |
| **株式** | ◎ | △ | ○ |
| **投資信託** | ○ | ○ | ○ |

**（解説）**

預貯金は，利子率が低いため収益性は低めだが，預金保険制度によって元本が保護されているため安全性は極めて高く，またいつでも引き出せるため流動性も非常に高い。

国債は，国が発行する債券なので安全性は預貯金と同様に極めて高いが，利回りは預金と同様に低めである。換金は満期まで待つ必要があるため，流動性は預金よりもやや劣る。

株式は，企業の業績向上や配当金により高い収益が期待できるが，株価の変動リスクがあるため安全性は低い。近年はインターネット取引も発達しており，流動性は低いとはいえない。

投資信託は，複数の資産に分散投資するため，株式ほどのリスクはないが，預貯金ほどの安全性もない。収益性も同様に，株式と預貯金の中間的な位置づけである。換金性も一般的に良好で，流動性が低いとはいえない。

**▶社会を発展させるための金融とは？**

**金融には「社会的責任投資」という考え方があります。それがどのようなものかを調べてみよう。また，それが経済や社会の発展にどのような意義をもつのか，意見をまとめてみよう。**

（例）

社会的責任投資（SRI: Socially Responsible Investment）は，お金を増やすことだけを目的とせず，環境や社会に良い影響を与える企業に投資することを指す。たとえば，再生可能エネルギーを活用する企業，従業員のワークライフバランスに積極的な企業，地域社会に貢献している企業などを選んで投資をおこなう。逆に，環境に悪影響を与える生産活動をおこなう企業や従業員を不当に扱う企業への投資を避けることでもある。

これは，私たちの投資行動が社会に影響を与えることを意識した考え方である。「利益」と「社会への貢献」の両方を大切にする投資方法であり，SDGs（持続可能な開発目標）とも関連する，将来の社会をより良くするための一つの選択肢として考えることができる。